

## いちごのアザミウマ類の発生増加に注意しましょう

施設いちごにおけるアザミウマ類の発生は、2月頃から徐々に増加しはじめ、3月以降に急速に増加し、被害が目立つようになります（図1）。アザミウマ類による被害は、幼虫の加害により果実表面がさび状となり、商品価値が低下します（写真1）。3月までの被害発生は、主にハウス内で越冬したアザミウマ類に起因するため、秋に発生が多かったハウスでは特に注意が必要です。

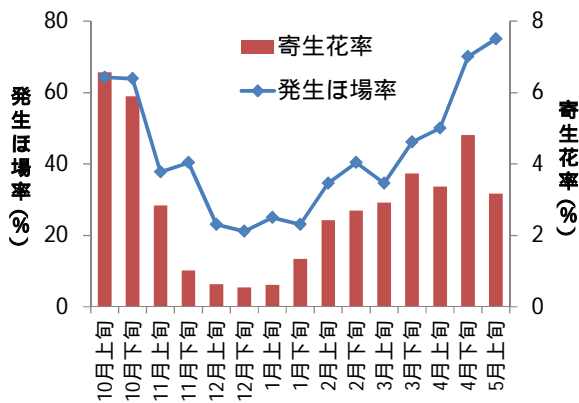


図1 アザミウマ類の発生消長  
(平成23・24年産)

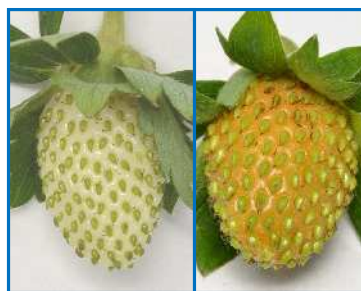


写真1 正常果（左）と被害果（右）



写真2 花に寄生したアザミウマ類

### 【防除対策】

#### 防除適期

- ・アザミウマ類が1割以上の花で見られる場合は、早めの防除が必要です（写真2）。
- ・被害は未成熟果で確認しやすいため（写真1）、収穫・管理作業時によく観察し、被害が見られる場合には表1を参考に防除しましょう。
- ・3月以降は気温が上がり、急速に被害が拡大します。早めの対策が重要です。

#### 防除薬剤について

- ・IGR剤は幼虫の殺虫効果が高く、発生初期の被害拡大防止に有効です。ただし、成虫には殺虫効果がないため、多発時には防除効果が劣るので注意しましょう。
- ・卵や蛹は薬剤がかかりにくいいため、多発時は5～7日間隔で複数回防除しましょう。
- ・一部の薬剤は、ミツバチやハダニの天敵カブリダニ類に対して影響があるため、事前に病害虫雑草防除指針（防除の手引き）や商品パンフレットなどを参照してください。

表1 アザミウマ類（一部はミカンキロアザミマ）に登録のある主な薬剤

商品名	使用時期	希釈倍数	使用回数	ミツバチ 影響日数	薬剤系統
<b>発生初期</b>					
マッチ乳剤*1	収穫前日まで	1000～2000	4回	1日	IGR剤(脱皮阻害)
カウンター乳剤	収穫前日まで	2000	4回	1日	IGR剤(脱皮阻害)
カスケード乳剤*1	収穫前日まで	4000	3回	1日	IGR剤(脱皮阻害)
<b>発生が多いとき</b>					
アージェント水和剤*1,2	収穫前日まで	1000	4回	2日	合成ピレスロイド
スピノエース顆粒水和剤*2	収穫前日まで	5000	2回	3日	スピノシン
ディアナSC*2	収穫前日まで	2500～5000	2回	3日	スピノシン

\*1)登録は「ミカンキロアザミマ」。

\*2)アージェント水和剤はカブリダニ類など天敵に影響が大きい。スピノエース顆粒水和剤およびディアナSCはやや影響があるため、天敵が増殖するまでは散布を控える。

詳しくは、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>）までお問合せ下さい。  
病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター（@tochigi\_nousei）」でも発信中です。

( 0 2 8 - 6 2 6 - 3 0 8 6 )

